



「さわやか」は全腎協の

通院送迎事業の歴史そのもの

第16回北部九州三県合同通院送迎事業研修会開催

七月二十四日(日)十時からリールホテル小倉(北九州市小倉北区)で「第16回北部九州三県合同通院送迎事業研修会」を開催しました。毎年福岡、長崎、佐賀、福岡県腎臓病患者連絡協議会の森満義彦副会長をはじめ、長崎、佐賀の県腎協の会長や三県の各事業所から二十八名の参加がありました。

初めに、司会の田村郁乃さんから開会の挨拶がありました。

続いて、主催者の挨拶で「さわやか」の山田理事長が「今年で、北部九州三県合同通院送迎事業研修会は十六回目を迎えます。」

また、午後からは『さわやか』の設立二十周年記念祝賀会も行ないますので、今日一日よろしくお願ひします」と述べました。引き続き、研修会に入りました。

二十年を継続する事は

並大抵の事ではない

今回は、講師に一般社団法人全国腎臓病協議会(以下全腎協)の馬場享会長をお迎えし、『通院送迎これまでとこれから』「さわやか」



一般社団法人
全国腎臓病協議会
馬場 享 会長

活動の意義と全腎協の取り組み』と題して研修会を行ないました。

馬場会長は「『さわやか』が設立二十周年をお迎えになられた事は、私ども全腎協の通院送迎事業の歴史そのものです。」

組織の中で活動をしていく

姿が患者会活動の原点

『さわやか』の二十年という長い歴史を会員や通院困難者の為に継続する事は、並大抵の事ではないと実感しています。当時の患者会では、通院

これからの通院介護問題とは

これからの地域腎友会の役割とは、

- ◎ 私達の重要課題は通院困難者の通院支援に取り組む
- ◎ 長岡方式と言われる透析患者の体制に取り組む
- ◎ 長岡方式と言われる透析患者に特化したデイサービス利用の通院支援に取り組む



第16回
北部九州三県合同
通院送迎事業研修会
の様子

送迎支援ができない状況の中で、北九州市の『さわやか』では法人化に向けて取り組み始めて法人として立ち上げました。

しつかりとした組織の中で活動をしていく姿を拝見するにつれて、これが患者会活動の原点だという事を痛感しました。

運転ボランティアがいて

初めて送迎事業が成り立つ

とにかく、『さわやか』新聞は毎月の『さわやか』新聞を発行するのも大変な仕事

地域腎友会の役割

◎ 議会と行政、タクシー業界、透析施設、患者会の四者でのコラボに取り組む



◎ 通院支援と介護支援は一人一人に合った多くの選択肢に取り組む
ことです。一緒に取り組んでいきましょう。

です。

それと同時に、送迎事業とは運転ボランティアさんがあつて初めて事業が成り立ちます。

これらを継続しなければなりません。

山田理事長が立派であっても一人ではできる仕事ではありません。

『さわやか』新聞の中に、運転ボランティアさんの活動の内容や利用者さんとのふれあい、その他に色々な話題を交えながら、『さわやか』新聞を作成されています。

『さわやか』新聞を拝読させていただくと、心が通う運転ボランティアさんがいて、患者さんとのコミュニケーションを図りながら活動をしているのだと痛切に感じております。

いち早く法人化に変更し

順調に取り組んでいる

当時の全腎協は、法人化を勧めてきました。

そして、いち早く『さわやか』が法人化に変更し、順調な取り組みをされています。

残念ながら、新潟県長岡市では、患者会との結束がでなかつた為に法人化ができないまま現在を迎えています。

います。

最初の原点は、お互いを助け合うという事から始め、その中で無償送迎ができないのかという事を前提に取り組みました。自宅の方向が同じ患者さんを一緒に乗せて帰ってくる人を募集したところ、当時十六名程度いました。

その方々を上手く調整する事によって、送迎ができるという事で無償送迎を始めました。

しかし、平成十八年に道路交通法が改正され、福祉有償運送の狭間に悩み、継続が困難になりました。そこで長岡市では、行政を巻き込んで、ドアツードアのデマンドタクシーを広げました。

『障害者福祉は平等でなければならぬ』という福祉の厚い壁に苦慮し、度々の要望活動に対して福祉課は、透析患者に特化したデマンドタクシーの検討をする事になり、ドアツードアの実証実験が始まりました。

(裏面へつづく)

